

日本に世界の舞台が集中する4年間、日本サッカーが次のステージに堂々と立てるよう、最高のサポートをする。

百周年に際し、「過去への感謝、未来への覚悟」、ここまでの発展を築き上げてきた先人と歴史をリスペクトし、次の百年に挑むための起点とする。

JFA2005年宣言の推進

2005年宣言は私達のミッションステートメントである。会長としてのあらゆる意思決定をしていくうえで、最重要の拠り所としていくものである。日本サッカー協会の日々の活動に反映し、サッカーをそしてスポーツを文化となるよう努力していかなければいけない。

夢、理想とする姿を原動力としていかなければならない。2050年の約束を本気で目指す。

2022FIFA ワールドカップカタール大会予選突破、そしてベスト8

JFA2005年宣言 JFA のビジョンにある「サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える」。

ワールドカップで勝つこと、日本代表の責任、これは私達日本サッカー協会にとって最も重要な責務である。日本代表が勝つことは、日本サッカー協会の原動力であり、あらゆる発展を支えるものであることは言うまでもない。

2020年 FIFA ワールドカップアジア2次予選が3月と6月に始まる。そこを突破した後は9月からいよいよアジア最終予選が始まる。東京オリンピックを挟むことになるが、日本サッカー界にとって、最も重要な課題はワールドカップ出場である。本大会のベスト8、「新しい景色」という目標を掲げているが、まず予選を確実に突破することが第一に必要である。

現在の代表選手の多くはヨーロッパでプレーしている。その選手達のクラブとのコミュニケーション、コンディショニングのサポート、心理面でのサポートをしていかなければならない。

代表チームの予選突破は、日本サッカーのマーケティングにも大きく影響する。2020年2021年の最終予選に向け、最大限のサポートを行う。

東京2020オリンピック男女共メダル獲得

地元開催の東京オリンピックは、グラスルーツの拡大、スポンサー企業に対する貢献を考えると、日本サッカー発展にとって非常に重要となる。

男子は森保一監督のSAMURAI BLUEとの兼任を支えるべく、要望を踏まえスタッフ体制を強化する。Jリーグとの協働により、トゥーロン国際大会への出場等、海外強豪国との対戦機会を増やし強化を進める。

なでしこジャパンは、高倉監督のもと、金メダル獲得に向け活動している。なでしこリーグ、クラブ

との連携による強化スケジュールを確保し、主に国内を中心に強化を行う。五輪出場国、出場を逃した強豪国との強化試合を組み、世界との対戦に備える。

Jリーグとの協働の推進

代表とJリーグは日本サッカー発展の両輪である。現在Jリーグとは多くの協働の取り組みを実践している。ACLを闘う中でクラブも世界を目指しており、Jリーグ、クラブの監督、選手だけではなく、クラブのスタッフの国際化にもつながり、それは日本サッカーの底上げになる。オンザピッチのみならず、オフザピッチ、事務局レベル等においても、充実を図っている。JFAとJリーグは日本サッカー発展の両輪として、様々な分野において協働作業を進めていく。

47FA、9地域FAの基盤強化

この100年、都道府県サッカー協会が基盤となって、日本のサッカーを支えてきた。

47都道府県の基盤強化は、しっかりとした財政のサポート上に成り立つ。その自立を考えると、施設整備費用を増やし、自前のフットボールセンター運営、もしくはその指定管理を47FAが取得することにより、その収入も確保しなければならない。

また、暑熱や降雪等の影響に対し、年間を通してサッカーが楽しめる環境ができるよう、整備していく必要がある。

同時に、教員の働き方改革等の問題により、部活動が危機的状況になる。また、多くの教員のボランティアに支えられていたトレセン活動にも影響が出る。それをカバーするために、技術担当者の専任化を開始した。2020年すべてにはいきわたらないが、3年後には47FAに配置できるよう進めていく。

ガバナンス、コンプライアンスの強化が重要であり、デロイト・トーマツと共に進めていく。

ユース年代代表チームの国際競争力アップ

育成年代代表で世界を経験することは、非常に重要である。育成日本復活を越え、世界基準でのユース育成を推進していく。

幕張に新設される高円宮記念JFAナショナルフットボールセンターを活用し、世界基準の育成のための調査研究・発信を強化する。

レベルアップのベースとして、代表活動のみでなく、日頃の試合環境をより高いレベルで行うことを考え、後に述べる大会カレンダーの整備や、予選の免除等、当該連盟と話し合いを進めてプレイヤーズファーストの観点で改善していく。

大会カレンダーの最適化

気候の温暖化が進んでおり、夏の暑熱はますます苛酷になってきている。サッカーのクオリティの

前に、選手達の安全を確保しなければならない。様々な大会の開催地の見直し、日程、試合時間の見直し等を行っていく。

最適な環境でクオリティの高いサッカーができるよう、思い切った改革も含め、カレンダーを最適化していく。

サッカーファミリーの増加と登録人口回復

少子高齢化が進む中、サッカー人口を維持・増加させていくことは、簡単ではないが、将来の日本サッカーの発展にとって非常に重要である。未登録の方々をどのように登録に導くか、流出をいかに食い止めるか、現在詳細のメンバーシップ制度の調査と検討を進めている。調査に基づき積極的に対策を打っていく。

高齢化が進む中、シニア層の拡大も考えていかななくてはならない。サッカーの健康に対する効果の啓発、大会のサポート、ウォーキングサッカーの導入等、大胆に改革していく必要がある。

女子プロリーグ立ち上げと成功

2021年女子のプロリーグを設立することを決定した。単に代表チームの強化だけを目的としたものではなく、先進国で最低レベルである女性の社会進出を牽引する存在となること、そして子ども達にとって夢のあるパスウェイとなり、グラスルーツを拡大させることを目指す。

2023FIFA 女子ワールドカップ招致

2023年は、FIFA 女子ワールドカップ日本開催に立候補している。プロリーグの新設と合わせ、女子サッカー発展の契機としたい。

現在日本を含め4カ国（ブラジル、コロンビア、オーストラリア&ニュージーランド、日本）が立候補を表明している。簡単な闘いではないが、日本の運営能力、ホスピタリティ、そしてプロ化、過去の実績を前面に出し、招致活動を行っていく。

4種、女子、シニアの普及

FOOTBALL FOR ALL、グラスルーツ宣言の精神に基づき、47FAとの連携を強化しつつ、老若男女がサッカーをプレーする環境整備に努める。

部活動のサポートとクラブの活性化

教員の働き方改革から始まった部活動の様々な問題を解決するために、池田洋二副会長を中心に、学校部活動検討委員会を発足した。この委員会を継続し、持続可能なクラブ活動をサッカー界から提案する。また、クラブユース連盟との連携を深める等、青少年の教育に必要な部活動を持続して

いけるよう、様々な方法、解決策を検討し、スポーツ庁等と折衝していく。

部活動を指導したい教員、部活動を行いたい生徒、外部からお手伝いをしたい指導者、様々な方のやる気をサポートできるよう、最善の形を検討していく。都道府県によっても、状況が異なることから、47FAと協力し、それぞれの状況に合った解決策を探る。

人材養成

指導者、審判、役員、運営等を行う人材を養成していくことは、次の百年に向けたJFAの最も重要な使命である。グラスルーツや育成、日本サッカーの発展は、人材にかかっている。また、この中から次代を担う理事や役員、会長が生まれて来る可能性がある。どの人材にも共通して言えることは、サッカーを愛していること、歴史と未来をリスペクトできる人であるということある。すなわち、グラスルーツからプロまで、老若男女、子ども達を大切にできる人材でなければならない。そして、国際的な基準で物事を判断できる人材でなければならない。

そのために、それぞれの人材養成において、海外への派遣、人材交流を積極的に行っていく。

指導者は、幕張にできるJFAナショナルフットボールセンターを拠点とし、現在の指導者資格制度をさらにブラッシュアップしていく。指導者海外派遣制度を活用し、国際基準の指導者を養成していく。47FA技術担当専任者への促進をするため、インストラクター養成を厚くする。女子のプロ化と合わせ、S級、A級レベルの女性指導者養成を積極的に行う。グラスルーツの指導者の養成も含め、C級指導者の拡大を促進する。

審判は、JリーグのVAR導入に伴い、レフェリーのレベルアップはもちろん、VARに関わる人材の養成を実施していく。審判の人材交流も国際的なレベルで行う。女性審判増加の施策を検討する。

国際プレゼンス、リーダーシップ

国際プレゼンスを増すにはまず代表チームが強いことは大切である。そして、2023年FIFA女子ワールドカップ招致、2021年のJFA百周年の過去への感謝、未来への覚悟を、アジア、世界へ発信していく。2021年FIFA総会の日本開催の成功等を行うことにより、国際プレゼンスが増し、発言力も高まる。実際に、ワールドカップ最終予選の日程等、日本が主張したものがしっかりと通った。インターナショナルコーチングコース、指導者派遣、フットボールカンファレンスの開催等を継続していることが、世界からの信頼につながっている。

ガバナンス、コンプライアンス

暴力・暴言の根絶を、4年前から様々な形（相談窓口の設置、ウェルフェアオフィサー、安全保護宣言、指導者講習等）で取り組んできているが、まだまだ根絶には至っていない。これについては、断固とした態度で臨むと同時に、指導者養成での強化、ウェルフェアオフィサーの重要性を訴える等を、並行して行っていかなければならない。時間はかかるが、これを徹底していく。

スポーツ庁からスポーツ競技団体に対するガバナンスコードが出された。それに先駆けJFAは、理

事会、評議員会でお認めいただき、新たなガバナンス体制、選挙制度改革等をおこなってきた。間違いなく日本のスポーツ界の中で最もしっかりとした体制をとっている自負はあるが、アスリート委員会等、スポーツ庁の要求を満たしていない部分もある。私達の選挙制度改革等をしっかりと認めいただき、日本を代表する競技団体にふさわしい組織体制をつくる。

新たにデロイト・トーマツ（監査法人）と契約を結び、JFA のガバナンス、コンプライアンスに関する指導を受けている。また、47 都道府県協会に対しても、デロイト・トーマツ社の力を借りながら、日本サッカー界全体のガバナンス、コンプライアンスの精度を高めていきたい。

2023 年以降のマーケティング戦略

現在の代表スポンサーサイクルが 2022 年までで終了する。その後のマーケティング戦略を今から立てなくてはならない。世界の試合環境もネーションズリーグ等で男女共変わっていく方向である。また、テレビ放映権料等、世界的に減少傾向にあり、新たなマーケティング戦略が重要となってくる。これに乗り遅れると多くの収入を失うことになりかねない。日本サッカーの継続的発展のためにも、AFC、FIFA からの情報をしっかりと収集し、戦略を練っていく必要がある。

リスペクト活動の推進

リスペクトは私達の最重要の価値である。

私達 JFA の活動それ自体が社会貢献活動である。このことを忘れることなく、胸をはり、私達は日々の活動に取り組まなくてはならない。サッカーを通じた社会貢献活動は、夢先生、グリーンプロジェクト等がある。しかし、そのベースになるものは、リスペクト「大切に思うこと」の精神である。このことを忘れずにすべての私達の行動、サッカーの現場に浸透させていくことが、サッカーそれ自体の価値、私達サッカー協会、サッカー界の社会的価値を高めることへとつながる。

百周年の成功と次への飛躍

「過去への感謝、未来への覚悟」

過去をリスペクトし、未来への決意を固め、それを国内、アジア、世界へ、感謝と覚悟を発信する重要な機会とする。これからの百年のサッカーの発展の起点となるべく、重要な年と位置づける。

JFA2005 年宣言の推進

- ・日々目に触れ、耳にし、意識、実践するよう、JFA 職員から徹底していく。
- ・全国のサッカーファミリーと機会があるごとに共有する。
- ・2050 年の約束の目指す姿の達成に向け、戦略を立てあらゆる分野からアプローチをする。

2022FIFA ワールドカップカタール大会予選突破、そしてベスト 8

- ・代表アイデンティティの徹底
- ・Japan's Way の確立
- ・ヨーロッパにヨーロッパクラブ所属の代表選手のサポート拠点を設ける。
- ・Jリーグと協働し、最適な強化計画を立て実施していく。
- ・必要に応じてチャーター機を使用する等、最適コンディションで闘う環境を整備する。
- ・森保監督をサポートするスタッフ体制を強化する。

東京 2020 オリンピック男女共メダル獲得

男子:

- ・Jリーグとの協働により、強化日程の確保
- ・インターナショナルマッチデートを活かした U-23 年代の強化試合
- ・トゥーロン国際大会への出場
- ・暑熱対策等を考慮したスタッフ体制の強化
- ・大会期間中の移動、宿泊の環境整備

女子:

- ・アメリカで開催される SheBelieves Cup に出場し、強豪国と対戦（アメリカ、イングランド、スペイン）
- ・国内で強豪国と対戦（五輪出場国、五輪を逃した強豪国）
- ・国内合宿において、男子選手の協力を得て強度の高いトレーニングを実施
- ・暑熱対策等を考慮したスタッフ体制の強化
- ・大会期間中の移動、宿泊の環境整備

Jリーグとの協働の推進

- ・データベースの共有により、お互いのマーケティング戦略へ活用し、グラスルーツの開拓につなげていく
- ・21 歳以下選手の出場奨励ルールを開始

- ・ ACL 出場チームへのサポート
- ・ Jリーグクラブ監督とのミーティング
- ・ 審判のレベルアップと VAR の開始
- ・ Jクラブアカデミーとの育成面での連携
- ・ Jクラブとのコミュニケーション

47FA、9 地域 FA の基盤強化

- ・ 施設整備費のさらなる確保
- ・ 降雪地域に対する施設整備費の新たな設定
- ・ 暑熱対策に対する施設整備費の新たな設定
- ・ 技術担当者の専任化
- ・ 部活動サポートの継続
- ・ 災害への復旧支援
- ・ 法務相談の継続
- ・ ガバナンス、コンプライアンスの強化
- ・ 人材交流
- ・ タウンミーティング、訪問会議の実施
- ・ 47FA で開催されている国際大会へのサポート

ユース年代代表チームの国際競争力アップ

- ・ 幕張に新設される JFA ナショナルフットボールセンターを活用したトレーニングの充実、発信
- ・ 育成年代でのワールドカップ出場による世界を経験することを重視した強化
- ・ 育成年代こそ国際経験を積ませる
- ・ 低年齢からの育成の見直し
- ・ Jリーグとの協働による、17 歳で Jリーグデビューを目指した育成

大会カレンダーの最適化

- ・ リーグ戦のカレンダー改革
- ・ インターハイの冷涼地での固定開催の検討
- ・ 中体連大会の冷涼地での固定開催の検討
- ・ クラブユース連盟の大会の開催地の検討
(これらはすべて当該連盟の中でしっかりと話し合っ進めていかなければならない)
- ・ カレンダーの最適化に伴う必要な予算の確保

サッカーファミリーの増加と登録人口回復

- ・メンバーシップ制度の調査
- ・調査に基づく未登録者への登録への誘導
- ・流出を食い止める対策の検討
- ・Jリーグとの協働でデータベースを構築し、サッカーファミリーの増加に活かす
- ・健康に対するサッカーの効果の啓発
- ・シニア層への大会サポート
- ・ウォーキングサッカーの効果的活用
- ・女子のプロ化と連動したグラスルーツの拡大

女子プロリーグ立ち上げと成功

- ・女子プロリーグの立ち上げ
- ・女性指導者の養成と配置促進
- ・参入クラブとの協働によるグラスルーツの拡大
- ・新たなマーケティングリレーションシップの確立
- ・女性スポーツ医科学の発展への貢献
- ・女性人材の登用とサポート
- ・選手への研修の充実とデュアルキャリア、セカンドキャリアのサポート
- ・女性活躍社会の牽引に向け、社会へ発信

2023FIFA 女子ワールドカップ招致

- ・ルールに則った招致活動の実施
- ・国内での機運を盛り上げる活動の実施
- ・レガシープログラムの計画と実施
- ・グラスルーツ拡大

4種、女子、シニアの普及

- ・4種年代の大会の整備とリーグ戦のあり方の検討
- ・補欠ゼロへの取り組み強化
- ・指導者の意識改革
- ・女性指導者の養成と配置
- ・保護者への働きかけ
- ・啓発ツールの作成と活用
- ・調査に基づく施策の展開
- ・47FA の状況に応じた施策の展開

- ・ FIFA の Football in School との連動
- ・ シニア年代、レディース年代の大会の最適化
- ・ ウォーキングフットボールの導入

部活動のサポートとクラブの活性化

- ・ 部活動検討委員会の継続
- ・ ガイドラインの作成と展開
- ・ 教員向けの情報発信強化
- ・ 様々な制度の活用と改革
- ・ 指導者ライセンス保持者の外部指導員としての活用
- ・ 部活動とクラブユース連盟との連携の検討

人材養成

- ・ 47FA との人材交流の推進
- ・ Jリーグ、Jクラブとの人材交流の促進
- ・ AFC、FIFA 等への人材派遣
- ・ 様々な制度を利用した指導者の海外派遣
- ・ 女性指導者養成の加速
- ・ S 級、A 級女性指導者向け特別コースの開催
- ・ 審判の国際的な人材交流
- ・ VAR 導入に伴う審判の研修

国際プレゼンス、リーダーシップ

- ・ 代表チームの活躍
- ・ 2023 女子ワールドカップ招致
- ・ 2021FIFA 総会の成功
- ・ 2020 東京オリンピックでの活躍と運営能力の証明
- ・ 継続したアジア貢献事業の実施

ガバナンス、コンプライアンス

- ・ 暴力暴言の根絶 ゼロトレランス
- ・ 研修の強化
- ・ ウェルフェアオフィサーの推進
- ・ 各種連盟と協力したガバナンスの強化

- ・ 47FA 技術担当専任者の配置、指導者へのメンタリング
- ・ 人材交流によるガバナンス、コンプライアンスの強化
- ・ デロイト・トーマツ社との連携により、47FA のガバナンス、コンプライアンスの強化

2023 年以降のマーケティング戦略

- ・ 新たなマーケティング戦略の構築
- ・ AFC との放映権、マーケティング権のあり方の交渉
- ・ FIFA からの情報収集
- ・ 現在のパートナーに対する最大限のサービス
- ・ 強い日本代表であり続ける

リスペクト活動の推進

- ・ リスペクトの一層の推進
- ・ リスペクトの一層の発信
- ・ リスペクト・フェアプレーデイズを活用してのプロモーション
- ・ 代表チームアイデンティティをトレセン、育成年代に浸透させる

百周年の成功と次への飛躍

- ・ 正史の完成
- ・ 世界への発信
- ・ 365 日が記念日
- ・ 新たな表彰制度で功労者の労に報いる
- ・ FIFA 総会の成功
- ・ 社会貢献活動の継続と推進